

横浜ユーラシア文化館収蔵：ハラフ文化の土偶

高橋 健*

はじめに

横浜ユーラシア文化館収蔵の土偶（収蔵番号 YMEAC-03-306）の資料紹介を行う（口絵 1）。本資料は、2003 年の開館当初から所蔵されている江上波夫氏旧蔵資料の一つであるが、これまで展示や紹介がされたことはなく、入手の経緯は明らかではない。資料カードによる名称は「彩文地母神像（土偶）」、地域はシリアとされている。

資料の概要

本資料は座った姿勢を表した土製品で、高さ（座高）7.0cm、長さ（後頭部からつま先まで）5.0cm、幅 4.2cm、重さ 47.3g を測る。今回の資料紹介にあたって、フォトグラメトリによる三次元計測を行った（図 1）。回転台上で撮影した画像をもとに、Agisoft 社のソフトである Metashape（Standard 版 ver.1.6.1）を使用して SfM-MVS 法により三次元モデルを作成した。点群データの加工には、フリーソフトである CloudCompare と MeshLab を使用した。

この土偶は、踵をそろえて両膝を立てた、いわゆる体育座りの姿勢をとる。背中では直立よりもわずかに後ろに倒れるが、安定して自立する座像である。

側面観では額の部分が凹んでおり、後頭部が上方に尖っている。顔は左右両面が平らでくさび状に尖る。左側面には暗褐色の顔料によって目が大きく描かれている。上下にはまつげが描かれ、中央には瞳の痕跡が残る。右側面では痕跡的な目の輪郭が確認できるのみである。

両腕は胸を抱え込むように前で組んでいる。乳房は平らな円盤状で、胸から前腕部にかけて、ブリッジ状に貼付されている。両脚は太く、ほぼ三角形の

おにぎり形に表現されている。手足ともに指は表現されていない。

前述した目の表現以外に、頭、顔、首、背面の肩と腰、乳房、腕、脚に黒の彩色が施されている。粗いタッチの筆づかいで、腕、脚、乳房ともに横方向の線である。墨のような黒さで、目の部分の暗褐色顔料とは明らかに異なる。

顔と後頭部はやや赤みを帯びており、左腕と左乳房も赤褐色を呈する。胴体と右腕、右脚は明灰褐色、それ以外の部分は暗灰褐色であり、色調が異なる部分が斑状にみられる。左前腕部の胎土には砂粒が多く含まれている。

この土偶は現状では完形に復元されているが、表面の色調の違いなどから、いくつかの破片が接合されている可能性が高い。この点を確認するために、軟 X 線写真を撮影した。撮影にあたっては、横浜市歴史博物館のソフテックス社製 M-150WM を使用し、正面、側面、上面の三方向から撮影した（図 2）。この結果、次の部分に継ぎ目が存在する可能性が高いことがわかった。すなわち、a. 後頭部、b. 首、c. 右腕、d. 左腕、e. 乳房、f. 太腿の付け根である。これは前述した表面観察による色調の違いともおおむね一致する。

本来であれば本資料と類例、特に発掘による出土資料との比較を行うべきだが、時間的制約もあり、十分な検討ができていない。図や写真に頼った比較となるが、本土偶の特異な点としては、尖った後頭部の形状と漆黒の彩色などが挙げられるだろう。

ハラフ文化の土偶

本資料は、その形態からハラフ文化後期の土偶だ

*TAKAHASHI Ken 横浜ユーラシア文化館主任学芸員

と考えられる。ハラフ文化は、古代メソポタミアにおいて都市文明が発達する前段階である紀元前6000年から5200年頃、現在の北東シリアから北イラクにかけての地域に分布した先史文化である（常木2004）。ハラフ文化は精製の彩文土器とトロスと呼ばれる円形住居で特徴づけられるが、女性土偶を作ることでも知られている（図3）。

ハラフ文化の土偶を、常木（同前）は3つに分類している。タイプ1は円筒形の体部をもつ単純で抽象的な土偶、タイプ2はバイオリン形の板状土偶、タイプ3は膝を立てて座った姿勢の具象的な土偶である。今回報告する土偶は、このうちタイプ3に相当する。「ほとんどの場合、腕は豊満な乳房を抱えるようにしている」「頭は細長い円筒で表現されることが多く、体や腕、足には刻線ではなく彩文で装飾が施されている」と述べられている。ハラフ文化の土偶を論じたBelcher（2016）の分類では、本資料はLH1Aタイプ（後期ハラフの豊満な乳房をもつ座像）に相当する。

本資料が「地母神像」として登録されたように、ハラフ文化の土偶はかつて豊穰と再生を象徴する地母神 mother goddess に対する信仰と結びつけて解釈されていた。しかし、近年ではこうした考え方は、考古学的な根拠を欠く先入観にもとづく解釈だとして強い批判を浴びている（Belcher 同前など）。本資料のような後期ハラフ文化の座像土偶については、胸の表現から女性像であるという点には異論はみられないものの、妊娠や出産、あるいは儀礼や宗教との関連については、否定的か、少なくとも中立な立場をとる研究者が多いようである。

おわりに

ハラフ文化の土偶は、贋作や盗掘品が流通していることでも知られる。本資料も修復が施されていることは確実であるが、本稿ではあくまで資料の提示

にとどめ、読者諸賢のご教示を仰ぐことにしたい。

謝辞

三次元計測については、南アジア文化遺産センターの野口淳氏からさまざまなご教示をいただいた。ソフテックス写真の撮影にあたっては、横浜市歴史博物館・橋口豊氏にご協力いただいた。

引用・参考文献

- 常木晃 2004『ハラフ文化の研究：西アジア先史時代への新視角』同成社
- Belcher, E. H. 2016 Identifying Female in the Halaf: Prehistoric Agency and Modern Interpretation. *Journal of Archaeological Method and Theory*. 23:921-948
- Campbell, S. and A. Daems 2017 Figurines in Prehistoric Mesopotamia. In T. Insoll (ed.), *The Oxford Handbook of Prehistoric Figurines*. Oxford. Oxford University Press.

a. 正面



b. 左側面



d. 背面



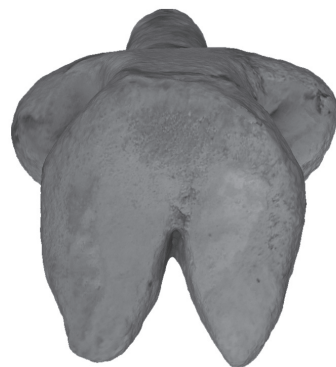
d. 右側面



e. 上面

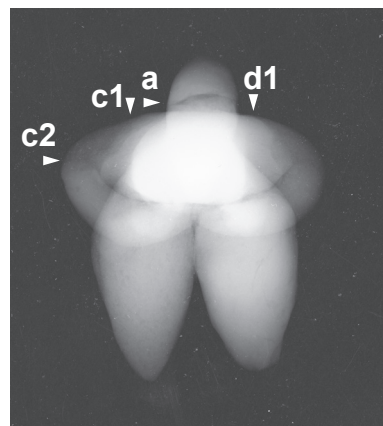
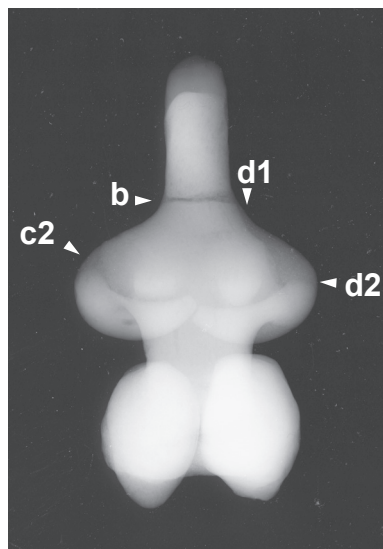
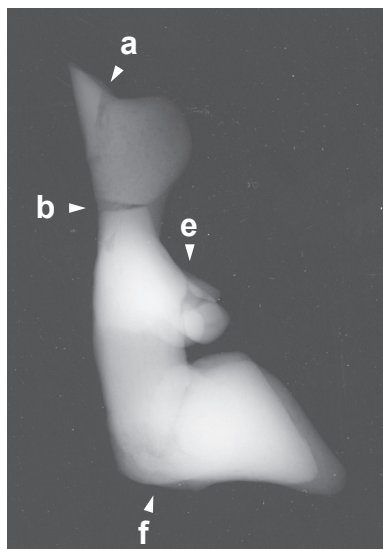


f. 下面



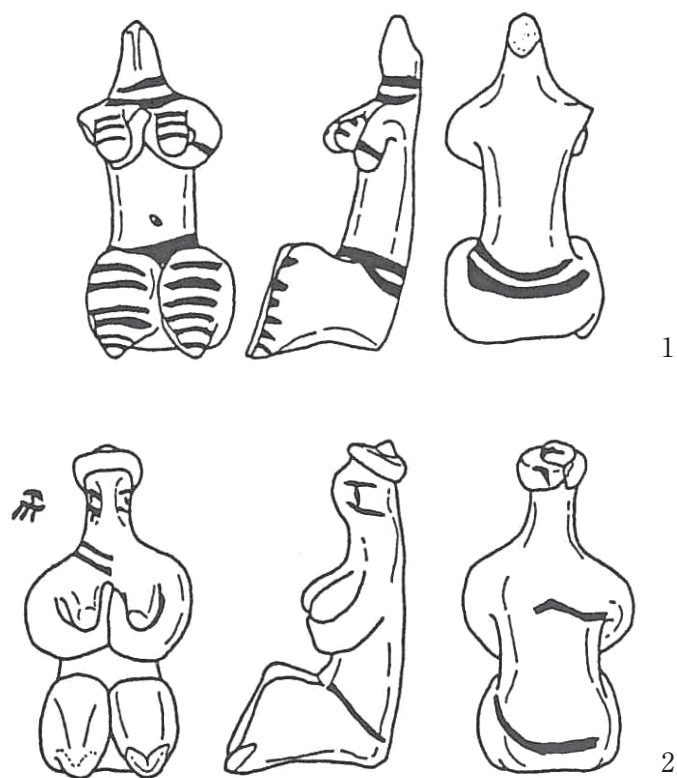
S=1/1

図1 土偶の正射投影画像



S= 約 3/4

図2 土偶の軟X線画像



- 1・2 テル・カシユカシヨク I 出土
(常木 2004)
3. テル・ハラフ出土
(Campbell and Daems 2017)

S= 約 3/4

図3 ハラフ文化の土偶

横浜ユーラシア文化館 第8号

Bulletin of the Yokohama Museum of EurAsian Cultures No. 8

2020年3月31日発行

編集 横浜ユーラシア文化館

〒231-0021 横浜市中区日本大通12

Tel.045-663-2424 Fax.045-663-2453

www.eurasia.city.yokohama.jp/

発行 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団

印刷製本 朝日オフセット印刷株式会社

Edited by the Yokohama Museum of EurAsian Cultures

12 Nihon-odori, Naka-ku, Yokohama, Japan

Published by the Yokohama Historical Foundation

Printed in Japan by Asahi Offset printing Co., Ltd.

©Yokohama Museum of EurAsian Cultures 2019

ISSN 2187-7734

横浜ユーラシア文化館
Yokohama Museum of EurAsian Cultures